ー 子どもの育ちを支える仲間としての保護者 ー

Q 1　子どもの生活は園と家庭で営まれており、保護者との連携も大切だといわれます。
保護者の方と子どもの姿が日々の園生活について対話されることはありますか？

A 1　「保護者と教師」ではなく、「子どもの育ちを支える仲間」としてあるためにはどうすべきかを模索中です。このようなあり方を実現したいと考えたときに、行事や活動などへの問い直しが起こり、進め方を大きく変えたものの中に「参観」や「保育参加」があります。
「参観」では８名程度の保護者に参観をしてもらった後、担任とともにその日の子どもの姿について語り合う時間を設けました。参観の際は、子どもの育ちを捉えることを意識してもらい、それぞれがその日の様子をどのように捉えたか言葉を交わしていきました。
また、「保育参加」では、自分の子どもの学級以外の保育と保育後のD.D.にも参加してもらいました。悩み相談やちょっと聞いてみたいことを話す時間とは区別し、子どもの育ちを支えるとはどういうことかをともに見つめる機会になったと感じています。
これまでと同様に実施している「個人懇談」においても、わたしたちの構えが変化してきたように感じています。「保護者と教師」ではなく「わたしたち」がそれぞれにその子どもをどのように捉えているのかを出し合いながら、子どもを支える方向性をともに見出していく構えをつくろうと試みているところです。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ー 省察をすること ー

Q1 子どもと、また職員と振り返りを行う際に経験が邪魔をすると思う時があります。子どもや職員間でその日に感じたことをしっかりと受け止めるためにどうすればよいか？

A1 自分の経験の中で積み重ねてきた実践知がいつしか「あたりまえ」になると、そうではない考えに対しては批判的思考がはたらくことがあります。それぞれが自分の経験において多くの学びを得て、それを糧に実践に向き合っていると思います。どうしても異なる考えには違和感を得たり、批判的なまなざしを向けてしまったりすることがあると思います。それは自分自身の軸をもって実践に向かっている証だとも捉えられるのではないでしょうか。その中でともに学び合うためには、そこで感じ考えたことを自分に向けることで、互いの声をきく構えがつくられていくように感じています。つまり「どうしてわたしは今その言葉に違和感をおぼえたのか」を問うことを意識するということです。その問いに向き合うことで自分自身が無自覚のうちにあたりまえだと捉えていたことが何かが見えてきます。
また、相手が語ることに対して自分の文脈で解釈しないことも心がけています。「どうしてそう捉えたのか」「どうしてそのように語ったのか」を問いかけることで、問われる側も問う側も、自分自身の捉え方を掴んでいく道筋が見え始めるように感じています。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ー 省察をすること ー

ご意見

省察するというプロセスは、個々の感覚や経験に任されているところがあり、可視化、言語化しにくい（するのが抵抗がある）と思っていた。他者との対話の中で問い直すことで互いの省察になることが分かった。子どもに向き合う「聴く」というまなざしが、先生方同士でも「聴く」ということにいかされているからこそ、省察することが可能になっていると感じました。

感想

先ほどのQ1にもかかわるご意見だと感じました。
「省察」「対話」という言葉は今、日常的に耳にするようになりました。しかしその過程は非常に複雑で繊細で簡単に実現できるものではないと、日々の取り組みの中で感じています。
そしてその時に必ず何かが見えるものでもありません。機会を重ねていくことによって過去の言葉が今の実践に重なり意味が見えたり、また当時捉えた意味が時を経て捉えな直されることもあります。過去と現在を行き来しながら常に今を見つめているように思います。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ー 言葉の意味 ー

ご意見
どこかで自分が正解探しをしてしまっているという意識にはっとしました。
子どもを尊重するということの意味に向き合っていたことを私自身今後にいかしていきたいと思いました。

ご意見
尊重、充実など教師の都合ではなく、子どもにとってどうなのかという視点に踏み込んでおられることが心に響きました。

感想
尊重、充実、協同…
実践を語る言葉として日常にあふれている言葉がたくさんあります。それらの言葉は自分の実践ではどのように表現されているのだろうか、そしてその実践をふりかえりどのように語れば自分の実践を表現できるのだろうか、そうして意味に向き合いながら保育実践の営みを言語化していこうとしている道半ばにいます。
「正解」に沿わせる、向かう実践ではなく、わたしは何を大切に考え実践に向かっているのか。よりよい教育のためぜひともに学び合えたらと思います。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.

ー わたしたちの仕事 ー

ご意見

自分のうまくできなかったり不十分だったりと感じる部分と向き合い続けることが保育者の仕事なのかと考えた。決してネガティブな意味ではなく、大人も子どもも心を揺らしながら一緒に過ごすから保育の中で学びが生まれるのではないか…と考えました。

感想

今はうまくいっていないと感じることが、時を経て大きな意味を為すこともあると思います。見えるものが増えることで不全感を感じるようになったり、考え直す視点が増えたり、だからまた悩む…そんな繰り返しの中にいるということ自体が学び続けているということなのではないでしょうか。
一人でモヤモヤすることは苦しいです。だから仲間が必要です。
ぜひともに学び合う仲間になりましょう！

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

Copyright©2011-2019 https://www.digipot.net All rights reserved.